

(1) 各スコープ1, 2, 3に対する取り組み

1) BIM連携システムを活用した施工物件のライフサイクルGHG排出量算定

当社は、カーボンニュートラル社会の実現に向け、2021年10月よりカーボンニュートラル推進プロジェクトを発足しています。2023年度からは、全社で連携した温室効果ガス（GHG）排出量の算定を開始。計画物件のライフサイクルGHG排出量の算定が可能なBIM連携排出量算定システム「SGES（セージス）※」を自社開発し、自らの排出量（Scope 1、2）だけでなく、事業活動の上流・下流からの排出量（Scope 3）を含むすべてのGHG排出量の算定を行っています。今後も継続して当社の事業活動におけるサプライチェーンGHG排出量算定を実施し、カーボンニュートラル実現に向けた取り組みを加速していきます。※SGES（セージス）：Sanken GHG Estimate System

2) 気候変動への取り組みに関する世界的基準に基づく情報開示

気候変動問題が経営に与える影響を重要な課題と認識し、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）提言に基づき、2024年3月に気候変動関連情報の開示を実施しました。気候変動への対応と事業の発展の両立を目指し、TCFDが推奨している情報開示フレーム（気候変動のリスク・機会に関するガバナンス・戦略・リスク管理・指標と目標）に沿って積極的な情報開示に取り組んでいます。今後も企業が求められる気候変動への取り組みに関する情報開示基準に合わせ、随時情報発信を更新して参ります。

3) SBT認定取得とステークホルダーと共働したGHG排出量削減活動

パリ協定の水準に科学的に整合する温室効果ガスの排出削減目標である「Science Based Targets（SBT）」の認定取得に向け、認定機関である「SBTイニシアチブ（SBTi）」にコミットメントレターを提出し、SBT基準に適合した目標の設定及び申請をいたしました。今後は、ステークホルダーとのエンゲージメントや提案活動によるサプライチェーン排出量削減を実施すると共に、再生可能エネルギー由来の電力活用を加速し、2050年のカーボンニュートラル達成に向けて温室効果ガスの削減に努めていきます。